保存用
保証書付

取扱説明書

—目次—

はじめに	P.1–P.3
安全ラベル	P.3
車椅子のお手入れ方法	P.4
車椅子の保守・点検	P.4
保管について	P.4
各部名称	P.5
お使いになる前に	P.6
車椅子の拡げ方	P.7
車椅子の折りたたみ方	P.8
安全にお使いになるための使用方法	P.9–P.10

ご使用になる前に必ずお読みください。
読了後は大切に保管してください。

Care-Tec Japan

はじめに

この度は株式会社ケアテックジャパンの製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。
この取扱説明書では、ご利用者や介助者、他の方への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。
表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。
また、ご利用者や介助者が安全に正しくご使用していただくために、必要な注意事項や正しい使い方が説明してあります。
ご使用になる前に必ずお読みください。
※裏表紙に保証書が付いておりますので、紛失しないように大切に保管してください※

警　告

取扱を誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

■ご使用前には必ず各部を点検してください。
故障・異常のある時は、直ちにご使用を中止し、修理を行ってください。
故障箇所・異常箇所を放置したまま使用されますと、転倒・転落事故等の原因となり大変危険です。

■改造・分解・シートの加工を行わないでください。
安全性の低下、また強度や耐久性が低下し大変危険です。
また、事故につながる恐れがありますので絶対に改造・分解しないでください。

■車椅子に乗り降りの際及び停止時には、必ず両輪の駐車ブレーキをかけ車椅子を固定させてください。
駐車ブレーキがかかっていないと車椅子が動き、衝突やご利用者の転倒事故につながる恐れがあります。

■駐車ブレーキのレバーは作動方向以外に力を加えないでください。また、必要以上に力を加えないでください。
作動方向以外に無理に力を加えると、ブレーキが変形・破損する恐れがあります。
また、足等で操作するとブレーキが破損する恐れがありますので、必ず手で操作してください。

■車椅子に乗り降りの際は、決してステップ板の上に足を乗せないでください。
ステップ板の上に足を乗せたまま乗り降りすると、バランスを崩し車椅子ごと転倒する恐れがあり大変危険です。
また車椅子が破損する恐れがありますので、必ずステップ板を上げ地面に足をつけた状態で乗り降りしてください。

■タイヤをもって車椅子を操作しないでください。
スポークや駐車ブレーキで手や指を挟む等、大変危険です。

■車輪が回転している時は、スポークに手や指を差し込まないでください。
手や指を挟んで、ケガをする原因となり大変危険です。

■車椅子での走行中は、身体を乗り出さないでください。
車椅子のバランスが不安定になり、転倒・転落する恐れがあります。
また、車椅子に座ったまま強い前傾姿勢をとらないでください。車椅子ごと転倒し大変危険です。

■車椅子での走行中は、足がステップ板から落ちないようにしてください。
ステップ板から足が落ちた状態で走行すると、ステップ板と地面の間に足が巻き込まれてケガをする恐れがあり危険です。
（足でこいで操作する場合は例外です）

■大きな段差を無理に乗り越えようとしないでください。
スピードをつけて段差を乗り越えようとすると、ご利用者が車椅子から転落し事故になる恐れがあります。
また、フレーム及びキャスタ車輪等の損傷を受ける場合があります。
段差の前では一旦停止して、必ずティッピングレバーを利用して乗り越えてください。

■傘や荷物等を持って、片手で走行しないでください。
傘をさしながら、また片手に荷物を持ちながらの片手操作ではバランスを崩す原因になります。
両手で操作し、バランスを保ちながらゆっくりと走行してください。

■急発進、急停車、急な方向転換をしないでください。
車椅子は歩行者として取り扱われます。歩行者としての交通ルールを守り、安全に走行しましょう。

■急な坂道(勾配4度(約22度弱)以上)では使用しないでください。

■最大体重を守ってご使用ください。
使用者最大体重は、積載物も含んだ重さです。

■背もたれを背折れしたまま使用しないでください。
後方への転倒、また背折れ金具で怪我をする可能性があり大変危険です。

■複数の人数で乗らないでください。
この車椅子は一人用です。二人以上で乗ると破損・事故の原因になり大変危険です。

警　告

取扱を誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

■車椅子以外の目的に使用しないでください。
物品運搬･踏み台等に使用しないでください。また絶対に車椅子の上に立ち上がらないでください。

■シートパイプがシート受けに収まっている事を確認してご使用ください。
万が一シート受けから浮いた状態でご使用されますと、フレームの歪み･故障の原因となり事故につながる恐れがあります。

■ポケットには1kg以上の重いものを入れないでください。
過度の荷物はバランスを崩し危険です。
また、背折れ部･ブレーキ等の操作レバーに荷物を吊り下げますとバランスを崩し転倒･転落事故等の原因となり大変危険です。

■車椅子を投げたり落としたり、衝撃を加えないでください。
フレームの歪み･破損･故障の原因となります。
安心して長くご使用いただくためにも、丁寧にお取り扱いください。

■車椅子を火気に近付けないでください。
シート部が燃え火災の原因となります。
またタイヤのパンクや、プラスチック等の変形、熱くなった金属部分でやけどする等の恐れがあります。

■座シート以外の部分に腰掛けないでください。また、車椅子のシートの上で立ち上がらないでください。
転倒･転落事故等の原因となり大変危険です。

■小さな子供に使用させたり遊ばせたりしないでください。

⚠ 注　意

取扱を誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

■肘掛け･脚部･背シートを持ち車椅子を持ち上げないでください。
肘掛けや脚部等が車椅子から外れる恐れがあり、大変危険です。
車椅子を持ち上げる場合、駐車ブレーキをかけ固定されているパイプをしっかり支えてください。
ご利用者が乗ったまま持ち上げる場合は、シートベルトをしっかりと締め、3人以上でフレーム前下部とティッピングレバーを持ってしっかりと支えてください。また、ご利用者の身体の一部を持たないでください。

■道路通行の際は、必ず右側を通行してください。また、歩道を通行してください。
段差や凸凹のある路面等を走行する時は、特にご注意ください。

■側溝の格子蓋や踏み切りの横断･エレベーターの乗り降りの際は、車輪を溝･レールに対して直角にして必ず介助者と一緒に渡ってください。
斜めの角度で進入すると溝･レールにはまって危険です。必ず介助者の方に援助をお願いしてください。

■坂道の上り下りや段差のある場所では、必ず介助者に支えてもらい走行してください。
坂道を上る時は前向きに、下る時は介助者が下り坂の下側に立ち、確認しながら後ろ向きにゆっくりと降りてください。
坂道を前向きで下ると、ご利用者が前へずり落ちる、前のめりとなり転倒･転落事故等の原因となる、スピードが出やすい等、非常に不安定になり危険です。また、介助者がバランスを失った時も危険です。

■傾斜地･坂道での走行は特にご注意ください。
傾斜地や坂道では、車椅子が予想外の方向に進む、スピードが出やすい等大変危険です。
ご利用者が車椅子からずり落ちる、前へ倒れる等、非常に不安定になり危険です。

■傾斜地･坂道で車椅子を駐車しないでください。
駐車ブレーキを使用しても車椅子が動く場合があり、転倒等の事故につながる恐れがあります。
車椅子の駐車は水平で平坦な場所で行ってください。

■車椅子の機能と操作をよく理解し、慣れた状態で介助を行ってください。
またご利用者の心身の状況、症状を充分考慮し、適切な介助を行ってください。

■次のような場所では走行を避けてください。
・交通量の多い道路･砂利道･凹凸のある道　　・ぬかるみ･雪道･凍結路･防止柵のない側溝や路肩付近等
・崖･川土手･海岸防波堤上･その他危険な場所　　・夜間･雨天･濃霧･強風･その他危険が予想される場合
夜間は側溝や障害物等が発見しにくくなり危険です。雨天は路面が滑りやすくなり危険です。

■次のような場所では厳重な注意が必要です。
介助者が付き添い、ご利用者の身体を支える等注意しながらご使用ください。
・狭い道･踏み切り･横断歩道･駅のホーム･エレベーター
・車椅子対応の動く歩道･車椅子対応の福祉車両　　・その他危険が予想される場所

■身体が安定しない方は、シートベルトの着用をおすすめします。
段差等で不意に衝撃を受けると身体が投げ出されることがあり危険です。
また、シートベルトを外したまま移動するとベルトが車輪にからまる等危険ですのでおやめください。
また安全ベルト装着機種は、必ず安全ベルトを締めてください。

⚠ 注　意

取扱を誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

■回転している車輪に手や指を挟み込まないように注意してください。

■車椅子にバリ等がないか確認してください。
衝突等により金属･樹脂部にバリ等が発生することがあります。ケガの原因となりますので、充分ご注意ください。

■認知症の方がご使用される場合は、必ず介助者が付き添ってください。
車椅子のシート、部品等を飲み込むことや一度かけた駐車ブレーキを不意に解除されることがありますので、充分ご注意ください。

■介助者は、ご利用者が車椅子に安定した姿勢で安全に座れていることを確認してから操作してください。
座面深く･また左右にかたよらずに座ってください。
ご利用者の身体の一部または衣服が、タイヤ･スポーク･キャスタおよび地面･建物･通行者に触れたり挟まったりしないようご注意ください。

■靴を履かずに足をステップ板に乗せてご使用いただく場合は充分ご注意ください。
壁や柱で足をケガする、足がステップ板から落ちて骨折する等、大変危険です。

■車椅子の乗り降りや移乗等車椅子が不安定になりやすい時には、必ず2名以上の介助者が付き添ってください。

■飛行機にご搭乗される場合のご注意
車椅子をご旅行先へ持っていかれる場合は、事前に利用予定航空会社又は旅行代理店にご相談ください。
事前確認なしに空港へ行きますと、航空会社の確認業務に時間がかかる場合がございます。
お早目の手続きでスムーズなご旅行をお楽しみください。

安全ラベル

取扱上の重要な事項を記載した安全ラベルが取付けられています。
安全ラベルをご確認のうえ、ご使用ください。
安全ラベルを汚したりはがしたりしないでください。

左側板(内側)

⚠ 警告　転倒･ケガをするおそれがあります。

- 取扱い説明書をよく読み、警告･注意･禁止事項を必ずお守りください。
- 駆動輪やブレーキ等に異常がないことをご確認ください。
- 乗り降りや移乗の際には、必ずステップ板を跳ね上げ、駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認してください。
- 車椅子を傾けすぎないでください。（強い前傾姿勢、段差等を乗り越える際はご注意ください。）
- 最大積載量以上の重量で使用しないでください。
- 可動部分を持って持ち上げないでください。
- 手や衣服などを挟まないようにご注意ください。
- 認知症の方が使用される場合は、必ず介助者が付き添い、安全をご確認の上ご使用ください。

車椅子のお手入れ方法

＜金属部分（フレーム、車輪等）＞
・フレーム等の金属部は、乾いた布もしくは強くしぼった濡れタオルでよく汚れを落として、乾いた布で拭き取ってください。
・スポークの通常のお手入れは、水を用いずに汚れを落とす程度で充分です。
・凹凸のある部分の汚れ、頑固にこびり着いた汚れは、市販の中性洗剤をご使用ください。

＜樹脂（プラスチック）部＞
・樹脂部品には、市販の中性洗剤をご使用ください。

＜シート類＞
・シート部分をぬるま湯で拭き、きれいな水で仕上げ拭きを行い、乾かしてください。

＜汚れがひどい時＞
・汚れがとれにくい場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取り、その後、水で濡らした布で洗剤を拭き取ってください。
・しみは、スポンジまたは柔らかいブラシを用いて取り除いてください。
・洗う場合は、ぬるま湯で手洗いしてください。洗濯機、乾燥機の使用はお避けください。

＜注意事項＞
・熱湯やオゾンで洗浄しないでください…故障・変質・変色の原因となります。
・中性洗剤以外を使用しないでください…中性洗剤以外を使用した場合、変質・変色・傷みの原因となります。
・揮発性剤（シンナー・ベンジン・アルコール類）は使用しないでください…変質・変色・劣化・傷みの原因となります。
・たわし、みがき粉および硬いブラシは使用しないでください…傷みの原因となります。
・ホース等で直接水をかけないでください…車輪およびフレーム内部・ブレーキ部に水滴が残り、錆の原因となります。

車椅子の保守・点検

1ヶ月に1度は安全点検を行ってください

＜タイヤ＞
・タイヤの溝は充分認識できるか、変形やひび割れがないか

＜各種ブレーキ＞
・正しく停止するかどうか、調整は適切かどうか

＜車椅子本体＞
・異音が発生しないか、まっすぐ進むか、四点接地しているか、きちんと折りたためるか

＜シート＞
・著しい破損やたるみ、傷みがないか

＜ネジ＞
・緩みはないか

＜ブレーキワイヤー＞
・錆、ほつれ、ゆるみ、切れていないか（介助ブレーキのないものは除く）

＜ハンドリム、車輪、キャスタ＞
・しっかり固定されているか

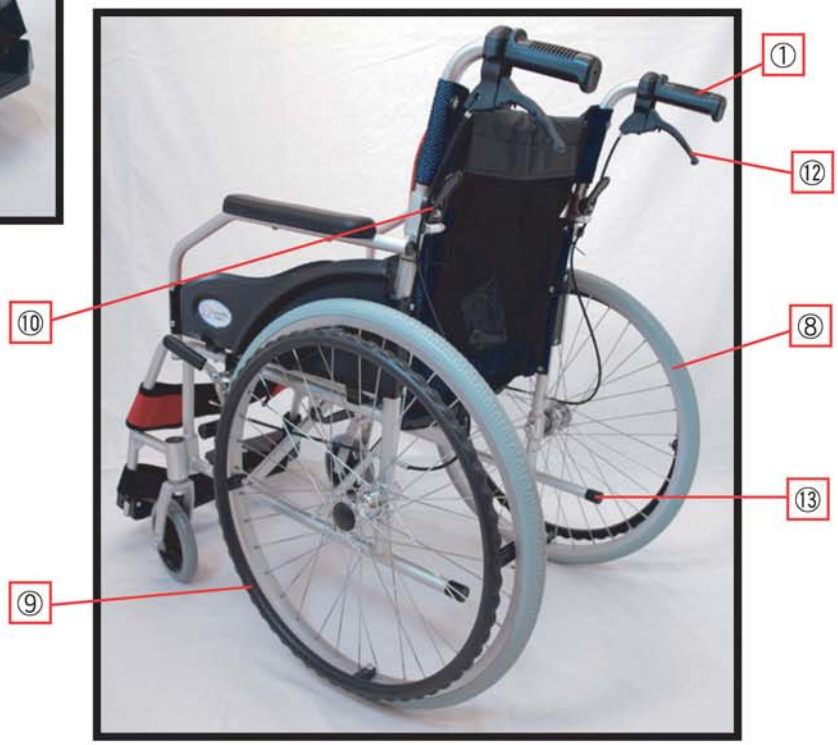
異常がございましたら、直ちにご使用をお止め頂き、お買い上げの販売店までご連絡ください。

保管について

車椅子はお手入れの後、安全な場所に保管してください。

下記のようなところに車椅子や部品を放置しないでください。事故や錆・破損の原因になります。
・車道に近いところ・人通りのあるところ
・路面に段差や凸凹のあるところ・湿気の多いところ
・海沿いの屋外（潮風の当たるところ）・雨、風のあたる場所
・ほこりの多い場所・傾斜地・坂道
・非常口、消火器、消火栓の前・暑い日や寒い日の戸外
・直射日光の当る場所（車内も含む）
・ストーブ等火気を使用し高温になる場所
・子供がいたずらをする恐れのある場所

各部名称



① 押手(手押しハンドルグリップ)…介助者が車椅子を移動させる際に握る部分です。
② 肘掛け(アームサポート)…ご利用者が肘を乗せる場所です。
③ 脚部(フットレッグサポート)…足を支持する装置です。
④ 足ベルト(レッグサポート)…足が後ろに落ちないように支えます。
⑤ ステップ板(フットサポート)…足を乗せる板です。
⑥ 前輪(キャスタ)…自在に方向転換できる小車輪です。
⑦ 駐車ブレーキ…車椅子を駐車する時に使用します。
⑧ 後輪…駆動輪です。(介助用の場合は主輪です。)
⑨ ハンドリム…自走するときに使います。(自走用のみ)
⑩ 背折れ金具…車椅子を折りたたむ際、さらにコンパクトになります。
⑪ シートベルト…体がずり落ちないよう腰を安定させるベルトです。(該当機種のみ)
⑫ 介助ブレーキレバー…介助者がブレーキを制動するときに握る部分です。(介助用・自走介助兼用のみ)
⑬ ティッピングレバー…段差を乗り越える際は、この部分を踏んで前輪を浮かせてください。
⑭ 背シート(バックサポート)…背部が寄りかかる場所です。
⑮ 座シート…座る場所です。
⑯ 側板(サイドボード)…衣類等が車輪に巻き込まれるのを防ぎます。

お使いになる前に

全ての車椅子は工場出荷時に点検･調整済みですが、運送時の振動等により調整に狂いが生じる場合があります。
安全のため、車椅子を使用する前に各部の点検･簡易動作チェックを必ず行ってください。
点検･調整が不十分なまま走行すると、車体の破損･事故につながる恐れがあります。

＜装着品の確認＞
- 背シート、座シートは、しっかりと固定されていますか？
- 背折れ金具は、しっかりと固定されていますか？
- 肘掛けは、しっかりと固定されていますか？
- クロスは、しっかりと受けに収まっていますか？
- 足ベルトは、しっかりと取付けられていますか？

＜全体的に＞
- ガタつきはありませんか？
- まっすぐに走りますか？
- 各部ボルトやナットが緩んでいませんか？
- ワイヤーが部品等に引っかかっていませんか？

＜後輪の確認＞
- タイヤにキズがありませんか？異物が刺さっていませんか？
- タイヤの溝が充分残っていますか？変形していませんか？

＜脚部＞
- ステップ板がパタパタしていませんか？
- キズや亀裂等はありませんか？

＜ブレーキの確認＞
- 駐車ブレーキ及び介助ブレーキが正しく作動しますか？
- ブレーキをかけた状態で後輪が回転しませんか？

＜肘掛け＞
- キズや亀裂等はありませんか？

＜介助者へ＞
- 長期間の使用や使用頻度によっては、キャスタ車輪、脚部、肘掛け等の劣化がすすむことがあります。使用前点検を必ず行ってください。
- 異常がある場合は、使用を中止してください。
- 急な坂道･凹凸や段差のある場所･踏み切りの横断･エレベーターの乗り降り等の溝のある場所･その他危険が考えられる場所では、必ず介助者が付き添い、ご利用者の身体を支える等転倒防止に努めてください。
- 車椅子に乗って介助しないでください。
- ご利用者の身体の一部及び衣服が、タイヤに触れたり挟まったりしないよう注意してください。
- ご利用者の身体の一部及び衣服が、建物、通行者及び地面に触れたり挟まったりしないように注意してください。
- 重い荷物を車椅子に載せたり、押手に提げたりしないでください。
- 段差を乗り越える時等、キャスタを持ち上げる際は必ずティッピングレバーを踏んで両手と足で車椅子を持ち上げるように操作をして下さい。

⚠警告	■ステップ板の高さは地面より5cm以上で使用してください。 低すぎると路面の凹凸や障害物にステップ板があたり、転倒事故の原因になります。

車椅子の拡げ方・折りたたみ方

車椅子の拡げ方・乗り方(背固定式の機種は手順③を除きます)

①平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、車椅子の前方または後方に立ち、左右の肘掛を持って両側に拡げます。

②座シートを手で上から下に押し下げます。

※横を持ち押し広げないでください。

③押手部分を持ち、上方へ持ち上げます。
※背折れ金具が完全にロックされていることを確認してください。

④ご利用者が車椅子に乗車後、ステップ板を下ろしてください。

⚠警告	■シートパイプの横や下に手や指を入れないでください。 パイプに手や指を挟んでケガをする恐れがあります。 ■車椅子を拡げた際、座パイプが受けに収まっているか確認して座ってください。 パイプが曲がり、転倒・転落事故の原因となります。 ■背もたれを上げる際、「カチッ」と音がして、背折れ金具が完全に固定されていることを確認してください。 ロックされていないと急に背もたれが倒れ転倒・転落事故の原因となります。 ■車椅子に乗り降りの際、絶対にステップ板の上に乗らないでください。 車椅子がバランスを崩し、転落事故の原因となります。 ■持ち手に重いものを掛けないでください。 車椅子が不安定になり、転落事故の原因となります。

車椅子の折りたたみ方・降り方（背固定式の機種は手順②を除きます）

①平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、ステップ板を上方へ跳ね上げ、ご利用者はアームサポートを持ちゆっくりと立ち上がります。

②押手部分を片手で持ち、背折れ金具のレバーを後方へ引き背もたれを倒します。

③座シートの前方と後方の中央部を同時に持ち上げます。

※車椅子に乗り降りの際は、決してステップ板の上に足を乗せないでください。

⚠警告

■シートパイプの横や下に手や指を入れないでください。
パイプに手や指を挟んでケガをする恐れがあります。

■車椅子に乗り降りの際、絶対にステップ板の上に乗らないでください。
車椅子がバランスを崩し、転落事故の原因となります。

■持ち手に重いものを掛けないでください。
車椅子が不安定になり、転落事故の原因となります。

■折りたたむ際に、押手を持って左右から押し縮めないでください。

■車椅子を折りたたむ際には、ポケットの中に物が入っていないことを確認してください。
ポケットの中の物を破損したり、車椅子の故障の原因となります。

安全にお使いになるための使用方法

駐車用ブレーキの使用方法

①ブレーキレバーを操作しロックをかけます。

②ロックした方向と反対に引くと解除します。

一体型駐車用ブレーキの使用方法

①ブレーキを矢印の方向に押し下げるとロックします。

⚠警告

■車椅子の乗り降りやベッドへの移乗時には、必ず駐車ブレーキをかけてください。
駐車ブレーキをかけないと車椅子が動き、転倒事故の原因となります。

介助ブレーキの使用方法(介助用・自走介助兼用のみ)

①レバーを握るとブレーキがかかります。

②レバーを離すと解除します。

一体型駐車用ブレーキの使用方法

①レバーを握るとブレーキがかかり、離すと解除します。

⚠警告

■急ブレーキをかけないでください。
車椅子に乗っている方が前方へ転倒する恐れがあります。
■ブレーキは両側同時にかけてください。
バランスを崩し転倒事故の原因となります。

自走用車椅子の動かし方

①駐車ブレーキのロックを解除します。

②ハンドリムを握り車輪を回転させ移動します。

※タイヤを持って車椅子を操作しないでください

※車輪が回転している時は、スポークに手や指を差し込まないでください

⚠警告	■スピードが出ている状態で、素手でハンドリムをもって減速しないでください。 摩擦で手にケガをする恐れがあります。 ■走行中、体を乗り出さないでください。 バランスが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。

機種別のお取扱い方法につきましては随時更新しておりますので、
弊社ウェブサイトをご覧ください。
http://care-tec.jp/

保証基準

保証期間

ご購入日より1年間です（本体・付属品共）※消耗部品は含みません※
※消耗部品‥‥キャスタ輪・シート類・ノーパンク車輪・バンドブレーキカバー・板ばね・ワイヤー

保証期間後

保証期間後はお買い上げの販売店にご相談ください。

保証の適用除外となる場合

(1) ご使用による消耗および取扱不注意による破損
　　例）タイヤの磨耗、ワイヤー、シート、ステップ板の破損等
(2) 地震、台風、水害等の天災および事故、火災による焼失・破損
(3) お取扱の不注意、操作未熟ならびに故意または過失等誤って使用されたことによる破損
(4) 保全上の不備、また弊社および販売店以外で行った修理や改造等による破損
(5) 弊社および販売店が指定する純正部品以外のパーツ等の使用により発生した破損
(6) 一般に車椅子が走行しない場所、または特殊な状態での使用による破損
(7) 製品本来の使用目的にそぐわない使用による故障および破損
(8) 取扱説明書に従わずに使用して生じた故障および破損
(9) 取扱説明書に禁じられてる使用方法によって生じた故障
(10) 日本国外でご使用の場合

ご注意

(1) 保証書の再発行は致しませんので大切に保管してください。
(2) 一度でも使用した商品は原則としてお取り替えはできません。

修理・お手入れ・お取扱い等のご相談は、
まずお買い求めの販売店へお申し付けください。

製品保証書

品　　名	車 椅 子
品　　番	
保証期間	ご購入日より1年間
お買い上げ日	年　　月　　日
ご住所	
お名前	

Care-Tec Japan
株式会社ケアテックジャパン
〒812-0013
福岡県福岡市博多区博多駅東1-16-8　ITビル4F
TEL　0120-107-169
FAX　092-292-5592
ウェブサイト　http://care-tec.jp/